

概

況

概況

1. 取扱高

(1) 年間取扱高

平成2年中(1月5日から12月30日、開市日数 287日)の総取扱数量は、847,319tで前年比99.7%と前年をやや下回り、総取扱金額は、843,694百万円で前年比103.7%と前年をやや上回ったため、総平均価格は、996円と前年に比べ58円高(6.2%高)となった。取扱数量では、鮮魚類は、ハマチが増えたが、サバ、マイワシ、カツオなどが減少、マグロ類もやや減少し、全体では、2.0%減となった。冷凍魚類は、冷ギンタラが需要増で大幅な入荷増となったが、海外産地の不漁により輸入の減った冷タコ、高値低調の冷カレイ類が減少、冷イカ類、冷サケ・マス類も入荷減少し全体では、2.5%減となった。活魚類は、4.5%減となった。加工品類は、焼物製品と切身加工品は増加、塩干品は前年並、塩蔵品、練製品などは減少し、全体では、2.9%減となった。取扱金額では、鮮魚類は、5.6%増加、活魚類は、9.1%増加、貝類は、5.7%増加、冷凍魚類は、4.3%増加、淡水魚類は、2.9%減少、海藻類は、11.7%増加、加工品は、0.4%増加となった。平均価格では、鮮魚類は、7.8%高、活魚類は、4.3%高、貝類は、8.1%高、冷凍魚類は、6.9%高、淡水魚類は、0.1%安、海藻類は、3.6%高、加工品類は、3.4%高となった。

(ア) 生鮮品

鮮魚類の取扱数量は、173,388tで前年比98.0%とやや減少し、平均価格は、1,109円で前年比80円高となった。主要品目で見ると、サンマは、3年続きの豊漁となったものの、大型物が少なかったためか、入荷は、1.6割減となった。平均価格は、108円高となった。近年にない大不漁となったサバは、2割減となった。平均価格は、138円高となった。マグロ類は、メバチの輸入物が増加したが、マグロの国内物、キワダの国内物、輸入物が減少となり、全体では、わずかに減少となった。平均価格は、180円高となった。マイワシも不漁が続き、入荷は、1割減となった。平均価格は、46円高となった。スルメイカは、0.5割減となり、平均価格は、60円高となった。マアジは、比較的豊漁となったが、入荷はほぼ前年並であった。平均価格は、1円安となった。カツオは、前年に続き不漁で、入荷は1.5割減となり、平均価格は、169円高となった。養殖ハマチは、3.8割増となり、平均価格は、206円安となった。活魚類の取扱数量は、12,582tで、活アナゴ、活マイナなどが増加し、前年比104.5%となった。平均価格は、2,117

円で88円高となった。貝類の取扱数量は、55,218tで、前年比99.0%と減少した。平均価格は、973円で前年比64円高となった。主要品目で見ると、アカ貝が1.5割減で、143円高、アサリは、0.1割減で31円高、アワビは、0.4割減で1,086円高、トリ貝は、2.5割減で1,051円高、アオヤギは、2.3割増で117円安、ムキカキは、0.7割減で229円高、ムキホタテ貝は、0.8割減で255円高となった。淡水魚類の取扱数量は、3,728tで前年比99.7%とわずかに減少し、平均価格は、1,367円で前年比39円安となった。主要品目で見ると、アユが0.3割増で、4円安となった。ウナギが0.7割減で、369円安となった。

(イ) 冷凍品

冷凍魚類の取扱数量は、285,557tで前年比97.5%と減少し、平均価格は1,072円で前年比69円高となった。主要品目で見ると、冷エビ類は、インドネシア物1.5割増、タイ物7.3割増と、主力2カ国が順調に伸びたが、台湾物が7.3割減、冷アカエビが1.2割減などとなり、全体では、0.7割増となった。平均価格は、915円で、前年比205円高となった。冷サケ・マス類は、生鮮物の出回りに押され1.8割減となった。平均価格は、915円で前年比54円安となった。冷イカ類は、供給過剰に加え、近海生スルメイカの好漁が重なり、入荷は、2割減となった。平均価格は、585円で前年比35円高となった。冷マグロ類は、冷ホンマグロが1.7割増、冷キワダが5割増となったが、主力の冷メバチが0.3割減となり、全体では、0.3割増となった。平均価格は、1,699円で前年比30円安となった。その他の冷凍魚類では、冷タコは、モーリタニアやモロッコの不漁による輸入量減の影響を受けて、入荷は1割減となった。平均価格は、712円で前年比57円高となった。冷スリミは、2.4割増となり平均価格は、362円で2円高となった。冷サバは、1.6割増となり、平均価格は291円で5円安となった。冷凍貝類の取扱数量は、5,977tで、前年比88.0%となった。平均価格は、1,510円で、前年比243円高となった。主要品目で見ると、冷ホタテ貝は、2.7割減で、403円高となった。冷アワビも2.7割減で、1,269円高となった。冷凍淡水魚の取扱数量は、515tで、前年比82.5%となった。平均価格は、954円で、前年比161円高となった。主要品目で見ると、冷アユが、1.4割減で88円安となった。冷ワカサギは、2.8割減で、平均価格は、32円高となった。

図1-1 総取扱数量の動き

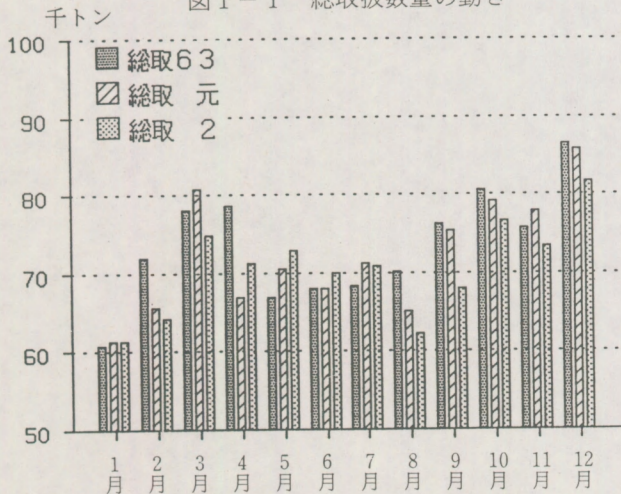


図1-2 総平均価格の動き

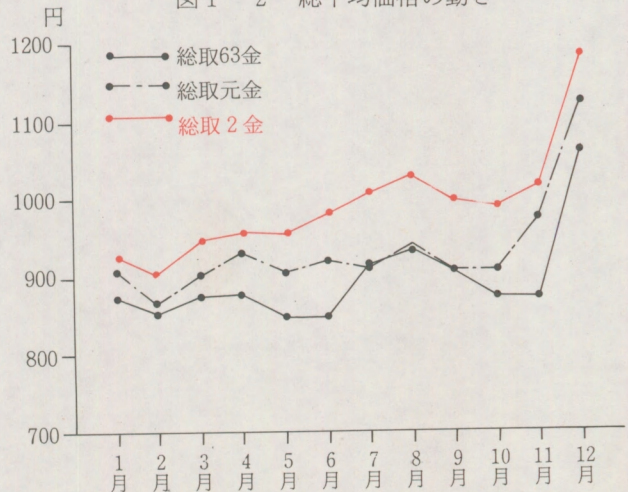


図2-1 鮮魚取扱数量の動き

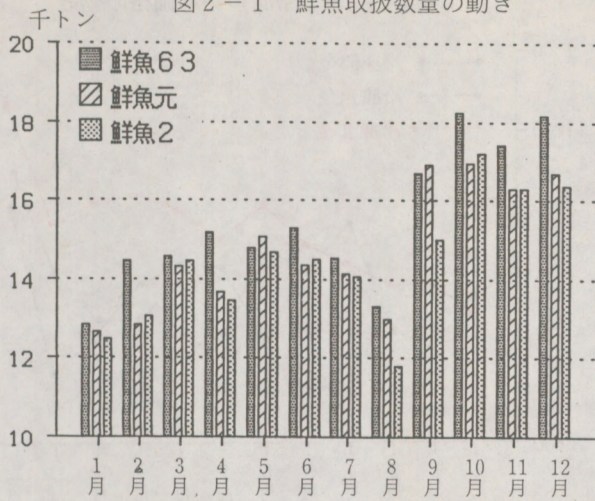
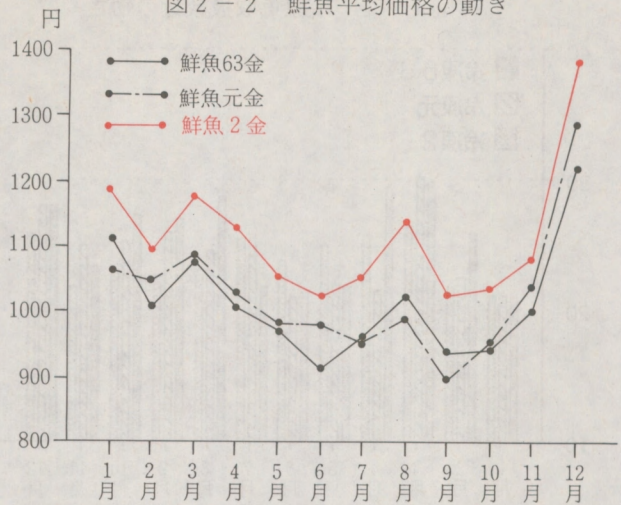


図2-2 鮮魚平均価格の動き



(ウ) 加工品

加工品の取扱数量は、302,575tで前年比 97.1%と減少した。平均価格は、817円で前年比 27円高となった。主要品目で見ると、焼物製品は、蒲焼ウナギが5.6割増となり、全体では 1.3割増となった。平均価格は 1,743円で、71円高となった。塩干品は、開干アジがわずかながら減少、全体では、ほぼ前年並となった。平均価格は、508円で19円高となった。塩蔵品は、塩ベニサケが 4.6割増となったが塩アキサケが 1.3割減、塩シロサケが 2.7割減となり全体では、0.7割減となった。平均価格は 1,644円で 12円安となった。煮干製品は、煮干イワシが 0.5割減、シラス干は 2割減となり、全体では、0.8割減となった。平均価格は、1,271円で82円高となった。

(2) 月別取扱高

1 月

☆鮮魚類 取扱数量 13,581t (対前年比 98.4%)
平均価格 1,178円 (" 114円高)

取扱数量では、マグロ(輸入)は、東南アジア方面の搬入が増加し 2.5倍増となり、マグロ(国内)は、漁不振で 7.6割減となった。スルメイカは、山陰沖合と対馬周辺で好漁となり、入荷も 2.7割増となった。カツオは、3.5割減、マアジは 3.2割減となった。平均価格では、入荷減少のキワダ(国内)が 8割高、カツオが 6.3割高、マアジが 4.7割高となった。入荷増のスルメイカが 1割安、サバが 1.5割安となった。

☆活魚類 取扱数量 956t (対前年比 105.8%)
平均価格 1,949円 (" 202円高)

取扱数量では、活シマアジが 8.4割増、活タコが5割増、活カンパチが 4.8割増となり、活カレイが 3.8割減、活ハマチが1.4割減となった。平均価格では、活カンパチが3.8割高、活タコが 4.2割減となった。

☆貝類 取扱数量 5,012t (対前年比 101.1%)
平均価格 960円 (" 97円高)

シジミ、ホタテ貝、アオヤギなどが増加したが、アサリ、アカ貝などが減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 21,075t (対前年比 99.7%)
平均価格 963円 (" 26円安)

取扱数量では、冷エビ類が、タイ物、インドネシア物が大幅増となり、全体では 1.9割増となった。冷スルメ(NZ)が 2倍増となった。冷マグロ類は、キワダ、ビンナガが大幅減となり、全体では 0.9割減となった。冷カレイ類は、アサバが大幅減少し、3割減となった。平均価格では、入荷減の冷カレイ類が 3.9割高となった。冷マグロ類は、キワダが 0.9割高、ビンナガが 1.9割高となり、全体では、0.4割高となった。冷サケ・マス類は 2.2割安となった。

☆加工品類 取扱数量 21,181t (対前年比 101.1%)
平均価格 694円 (" 26円安)

取扱数量では、切身加工品が、冷サバ切身が 3.8割増となり、全体では 2.6割増となった。焼物製品は、0.9割増となった。塩蔵品は、塩アキサケが 3.3割減、塩シロサケが 5.1割減となり、全体では 1.4割減となった。平均価格では、焼物製品が 1.2割高、切身加工品が 0.6割高となった。塩蔵品は、0.5割安となった。

図3-1 貝類取扱数量の動き

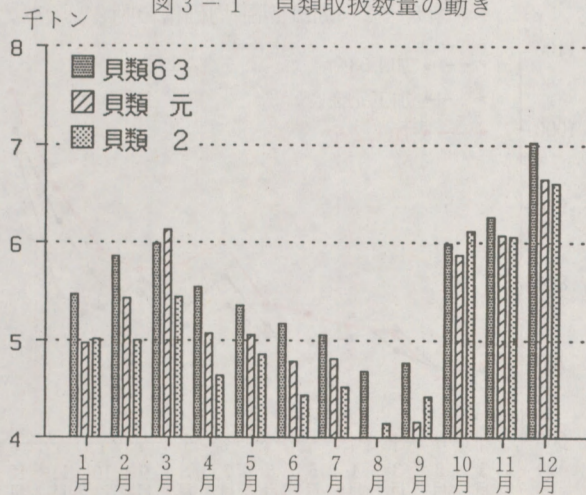


図3-2 貝類平均価格の動き

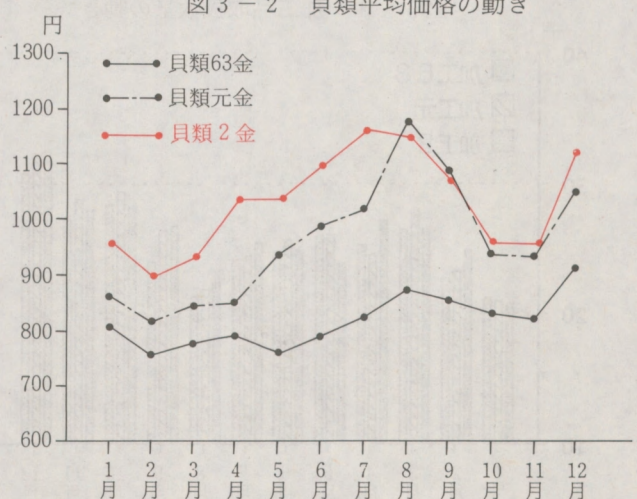


図4-1 冷凍魚取扱数量の動き

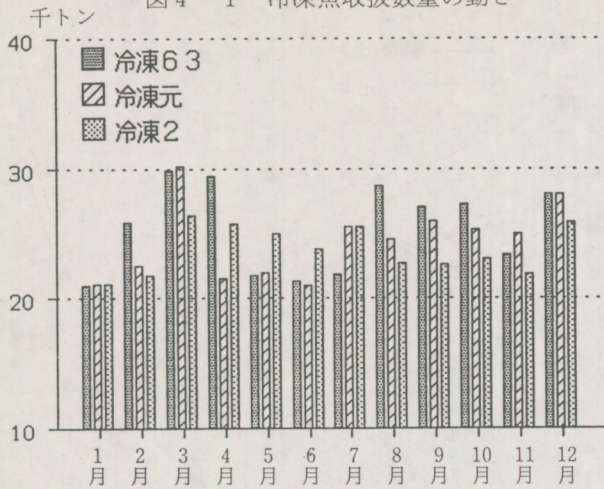
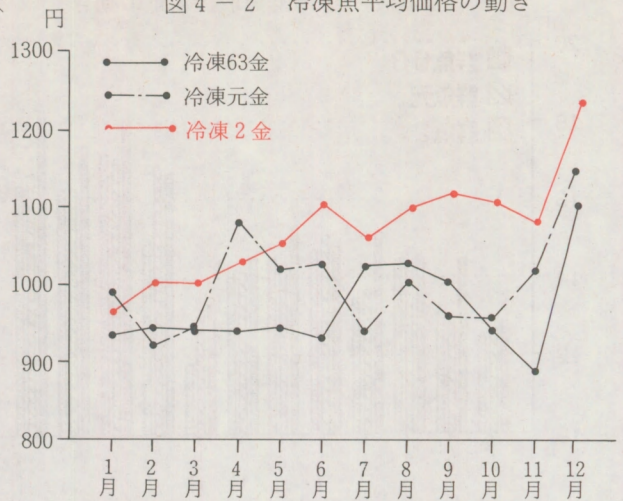


図4-2 冷凍魚平均価格の動き



2 月

☆鮮魚類 取扱数量 13,049t (対前年比 101.5%)
平均価格 1,086円 (" 37円高)

取扱数量では、マグロ(輸入)は、フロリダ物、チュニジア物などが増加し、7.4割増となった。サバは、日本海巻き網漁が好調で、2.2割増となった。スルメイカは、日本海、山口~福岡沖合で好漁が続き、7.8割増となった。カツオは2.2割減、マアジは1.3割減となった。平均価格では、入荷減少のカツオが3.6割高、マアジが1.3割高となった。入荷増のサバは、2割安、スルメイカは、2.3割安となった。

☆活魚類 取扱数量 895t (対前年比 104.9%)
平均価格 1,995円 (" 149円高)

取扱数量では、活カンパチが1.1割増、活タコが3.3割増となった。活カレイは4.5割減、活スズキは3.1割減となった。平均価格では、活カレイが3.7割高、活スズキが2割高となり、活タコは、3割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,997t (対前年比 92.2%)
平均価格 896円 (" 82円高)

シジミ、アオヤギなどが増加したが、アサリ、アカ貝などが減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 21,735t (対前年比 96.5%)
平均価格 1,004円 (" 84円高)

取扱数量では、冷エビ類は、インドネシア物、タイ物等が順調で、全体では4割増となった。冷タイ類は6割増となった。冷イカ類は、生鮮品に押され、ニュージーランド物以外は減少し、全体では、2.6割減となった。平均価格

では、入荷減の冷カレイ類が3.4割高となった。冷サケ・マス類は、シロサケが2.2割安、ベニサケが2.8割安となり、全体では、2.4割安となった。

☆加工品類 取扱数量 22,682t (対前年比 97.4%)
平均価格 678円 (" 14円安)

取扱数量では、素干品は、干スルメが2.2倍増となり、全体では、1.2割増となった。切身加工品は、冷サバ切身が2.2倍増、冷タラ切身が1.7倍増となり、全体では、4.7割増となった。平均価格では、塩干品が4割高となった。焼物製品は、1.4割高となった。煮干製品は0.9割安、素干品、0.7割安となった。

3 月

☆鮮魚類 取扱数量 14,469t (対前年比 101.2%)
平均価格 1,166円 (" 78円高)

取扱数量では、マグロ(輸入)は5割増となったが、マグロ(国内)は2割減となった。サバは、西日本各地で順調な水揚げがあり、3.5割増となった。カツオは、例年より早く漁が始まったが、入荷少なく、1.8割減となった。マアジは、1.6割減となった。平均価格では、入荷減のマグロ(国内)が4割高となった。マグロ(輸入)は、品質鮮度共に良く、3.3割高となった。サバは、1割安となった。入荷増のスルメイカは、1.7割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,092t (対前年比 102.7%)
平均価格 2,119円 (" 133円高)

取扱数量では、活イシタイが3割増、活カレイが2.2割増となった。活カンパチは、2.6割減となった。平均価

図5-1 加工品取扱数量の動き

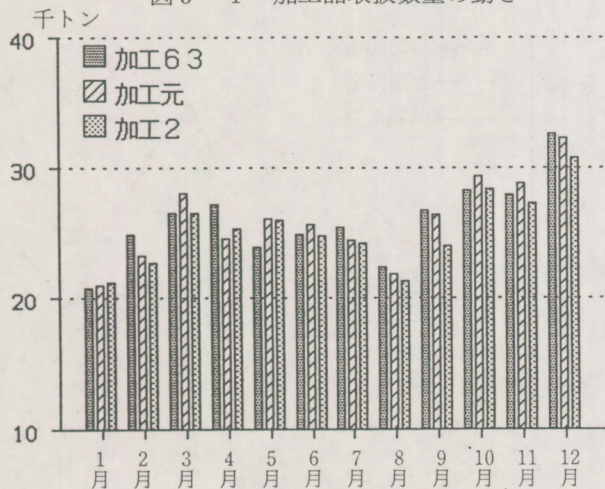
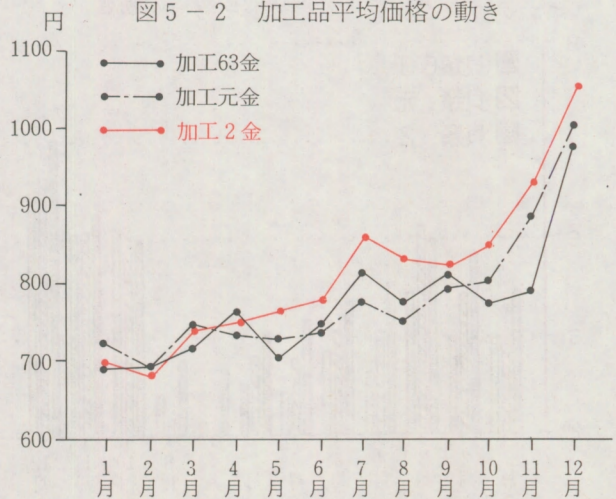


図5-2 加工品平均価格の動き



格では、活カンパチが6.8割高、活マタイが1割高となった。活ハマチ、活スズキは、1.3割安となった。

☆貝類 取扱数量 5,432t (対前年比 88.6%)
平均価格 938円 (" 97円高)

アサリ、アカ貝、ムキカキ等が減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 26,372t (対前年比 87.5%)
平均価格 1,001円 (" 55円高)

取扱数量では、冷凍マグロ類は、メバチが1.3割増となったものの、キワダが5.3割減、ビンナガが4.7割減となり、全体では、2割減となった。冷サバは、ノルウェー物等輸入物が大幅に減少し、4.8割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、キワダが1.5割安、メバチが0.7割安となり、全体では、0.5割安となった。冷カレイ類は、1.9割高となった。冷タイ類は、3割高となった。冷サケ・マス類は、2割安となった。

☆加工品類 取扱数量 26,495t (対前年比 94.6%)
平均価格 741円 (" 8円安)

取扱数量では、素干品は、干スルメが7.2割増となり、全体では、1.3割増となった。塩蔵品は、塩アキサケ、塩シロサケが大幅減となり、全体では、1.4割減となった。平均価格では、煮干製品は、煮干イワシが0.8割高、シラス干しが1.4割高となり、全体では、1.5割高となった。塩蔵品は、0.8割安、素干品は、1.5割安となった。

4 月

☆鮮魚類 取扱数量 13,452t (対前年比 98.3%)
平均価格 1,119円 (" 94円高)

時化の影響から、全般に入荷は振るわなかった。取扱数量では、マグロ(輸入)は7割増となった。ハマチは5.4割増となった。マグロ(国内)は、1.4割減となった。カツオは、房州の漁がまずまずだったが、九州、四国、東海物が低調で、3.2割減となった。平均価格では、入荷減のカツオが4割高となった。キワダ(国内)が2.2割高となった。入荷増のハマチは、2割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,016t (対前年比 103.7%)
平均価格 2,122円 (" 156円高)

取扱数量では、活カレイが1.9割増、活タコが2.7割増となった。活カンパチは3.2割減となった。平均価格では、活カンパチが5.5割高となった。活ハマチは、1.8割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,627t (対前年比 91.2%)
平均価格 1,034円 (" 186円高)

シジミ、アオヤギが増加したが、アサリ、アカ貝、ハマグリなどが減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 25,706t (対前年比 119.3%)
平均価格 1,028円 (" 54円安)

取扱数量では、冷凍サケ・マス類は、ベニサケが8.2割増、シロサケが0.7割増となり、全体では、2.3割増となった。冷エビ類は、インドネシア物、インド物等が大幅に伸び、全体では、5割増となった。冷サバは、伊豆諸島周辺や房州沖のたもすくい漁が不振で、冷凍物の依存度が高まり、2倍増となった。平均価格では、入荷減の冷サワラは、4.8割高となった。冷サケ・マス類は、シロサケが4割安、ベニサケが3割安となり、全体では、2.4割安となった。

☆加工品類 取扱数量 25,363t (対前年比 94.6%)
平均価格 741円 (" 8円安)

取扱数量では、塩蔵品は、塩アキサケが1.2割増、塩ベニサケが9.7割増、塩ギンサケが6.2割増となり、全体では、1.7割増となった。煮干製品は、煮干イワシが1.5割減、シラス干が2割減となり、全体では、0.8割減となった。平均価格では、煮干製品は、1.7割高となった。塩蔵品は、1.4割安となった。

5 月

☆鮮魚類 取扱数量 14,690t (対前年比 97.4%)
平均価格 1,045円 (" 61円高)

取扱数量では、マアジが山陰沿岸で好漁、2.4割増となった。ハマチは、4.6割増となった。サワラ類も1.5割増となった。マグロ(国内)は、日本近海の漁まとまらず、5割減となった。サバは、特に九州西方海域で不振、2.6割減となった。平均価格では、大幅入荷減となったマグロ(国内)が5.6割高となった。入荷量は前年並となったマグロ(輸入)は、2.3割高となった。サバは、4.8割高となった。マアジは、2.6割安となった。ハマチは、2.8割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,114t (対前年比 112.8%)
平均価格 2,011円 (" 4円安)

取扱数量では、活スズキは、1.8割増となった。活マタイは、3.6割増となった。活カンパチが5.3割減となった。

☆貝類 取扱数量 4,843t (対前年比 95.8%)
平均価格 1,038円 (" 104円高)

シジミ、ハマグリが増加したが、アサリ、アカ貝などが減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 25,021t (対前年比 113.6%)
平均価格 1,053円 (" 38円高)

取扱数量では、冷イカ類は、国内スルメイカとモンゴウイカが大幅増加し、全体では、1.5割増となった。冷エビ類は、タイ物が急増し、全体では、1.6割増となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが大幅増となったが、シロサケが半減し、全体では、1.3割減となった。平均価格では、入荷減した冷カレイ類が4割高となった。冷イカ類は、スルメイカ(国内)が1.7割高、スルメイカ(NZ)が3割高、スルメイカ(SA)が3.5割高となり、全体では、0.5割高となった。入荷増の冷サバは、1.3割安となった。

☆加工品類 取扱数量 26,011t (対前年比 99.7%)
平均価格 760円 (" 32円高)

取扱数量では、焼物製品は、蒲焼きウナギが6割増となり、全体では、1.3割増となった。煮干製品は、シラス干が1.8割減、煮干イワシが1.2割減となり、全体では、0.9割減となった。平均価格では、煮干製品は、シラス干が3.9割高となり、全体では、2.6割高となった。塩蔵品は、アキサケが2.8割安、ベニサケが2割安となり、全体では、小幅安となった。

6 月

☆鮮魚類 取扱数量 14,495t (対前年比 101.0%)
平均価格 1,021円 (" 37円高)

取扱数量では、マアジが山陰沿岸で好漁、入荷は2.5割増加となった。ハマチは、4.4割増となった。マグロ(輸入)は前年並となったが、マグロ(国内)は、漁不振で絶対量少なく、6.2割減となった。カツオは、日本近海の漁不振で2.2割減となった。平均価格では、入荷大幅減のマグロ(国内)が6.8割高となった。カツオは、3割高となった。入荷増のハマチは、2.7割安となった。マアジは、5.2割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,149t (対前年比 112.5%)
平均価格 2,093円 (" 31円高)

取扱数量では、活マタイが6割増、活シマアジが1.9割増となった。活カンパチは、4.4割減となった。平均価格では、活カンパチは、3.6割高となった。活マタイは、0.7割安、活シマアジは、0.9割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,435t (対前年比 92.9%)
平均価格 1,092円 (" 108円高)

ハマグリ、シジミなどが増加したが、ホタテ貝、アサリなどが大幅に減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 23,804t (対前年比 113.6%)
平均価格 1,104円 (" 76円高)

取扱数量では、冷サケ・マス類は、シロサケが半減した

が、ベニサケが 3.7 倍増となり、全体では、2.2 割増となった。冷エビ類は、タイ物が大幅増となり、全体では、1.9 割増となった。冷イカ類は、輸入物、国内物とも大幅減少し、全体では、2.7 割減となった。平均価格では、冷イカ類は、冷スルメ (SA) が 3.4 割高、冷スルメ (国内) が 1.9 割高などとなり、全体では、1.1 割高となった。入荷増の冷タイ類は、小幅安となった。同じく入荷増となった冷キンメタイは、1.3 割安となった。

☆加工品類 取扱数量 24,811t (対前年比 96.6%)
平均価格 777円 (" 36円高)

取扱数量では、塩蔵品は、塩アキサケが 2 倍増、塩ベニサケが 1 割増となり、全体では、0.9 割増となった。焼物製品は、1.2 割増となった。素干品は、干スルメが 3 割減となり、全体では、2.4 割減となった。平均価格では、入荷増の煮干製品が 2 割高となった。素干品は、干スルメが 2.3 割高となり、全体では、1.3 割高となった。

7 月

☆鮮魚類 取扱数量 14,082t (対前年比 99.5%)
平均価格 1,049円 (" 90円高)

取扱数量では、キワダ (国内) が、ソロモン海域、西経漁場などの漁が好調で、4.6 割増となった。メバチは、国内物が 8.7 割増、輸入物が 7 割増となった。カツオは、不漁で 2 割減となった。サバは、2.3 割減となった。平均価格では、大幅減となったマグロ (国内) が 6.6 割高となった。カツオは、3.4 割高となった。入荷増となったキワダ (国内) は 3 割安となった。ハマチは、2.7 割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,156t (対前年比 108.7%)
平均価格 2,250円 (" 153円高)

取扱数量では、活シマアジが 2.1 割増、活マタイが 5.8 割増となった。活カンパチは 3.3 割減、活スズキは 1.3 割減となった。平均価格では、活カンパチが 3.3 割高、活スズキが 1.7 割高となった。活スズキは 1 割安、活マタイは 1.6 割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,521t (対前年比 94.2%)
平均価格 1,162円 (" 147円高)

シジミ、ハマグリは増加したが、ホタテ貝は大幅減となった。

☆冷凍魚類 取扱数量 25,568t (対前年比 100.1%)
平均価格 1,059円 (" 114円高)

取扱数量では、冷エビ類は、ムキエビが主力の中国物が大幅増となったほか、タイ物、インドネシア物も依然入荷多く、全体では、1.7 割増となった。冷タコは、3.4 割増となった。冷イカ類は、冷スルメ (国内) が 5.3 割減となり、全体では、4 割減と大幅に減少した。平均価格では、冷エビ類は、1.6 割高となった。入荷減となった冷サケ・マス類は、2.5 割高となった。入荷増となった冷サバは、2.2 割安となった。

☆加工品類 取扱数量 24,276t (対前年比 99.1%)
平均価格 854円 (" 77円高)

取扱数量では、煮干製品は、煮干イワシが 2.6 割増、シラス干しが 2.3 割増となり、全体では、2 割増となった。焼物製品は、2.5 割増となった。素干品は、干スルメが 2.6 割減となり、全体では、1.7 割減となった。平均価格では、煮干製品は、4.4 割高となった。素干品は、0.9 割高となった。焼物製品は、小幅安となった。

8 月

☆鮮魚類 取扱数量 11,804t (対前年比 91.0%)
平均価格 1,135円 (" 143円高)

取扱数量では、マタイは、天然物、養殖物ともに 2 割増となった。マグロは、国内物が 3.3 割減、輸入物が 5 割減となった。マイワシは、2.6 割減となった。平均価格では、入荷減のマグロ (国内) が 5 割高、マグロ (輸入) が、4.2 割高となった。マイワシは、4.5 割高となった。入荷減のスルメイカは、3.3 割高となった。

☆活魚類 取扱数量 985t (対前年比 105.2%)
平均価格 2,297円 (" 98円高)

取扱数量では、活マタイが 4.6 割増、活スズキが 3.4 割増となった。活カンパチは 3.3 割減、活ヒラメは 2.5 割減となった。平均価格では、活カンパチが 2.4 割高、活ヒラメが 3.4 割高となった。活スズキは小幅安、活マタイは、1 割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,144t (対前年比 114.1%)
平均価格 1,151円 (" 25円安)

アサリ、ホタテ貝、アオヤギなどが増加となった。

☆冷凍魚類 取扱数量 22,748t (対前年比 92.4%)
平均価格 1,099円 (" 22円高)

取扱数量では、冷カレイ類は、1.2 割増となった。冷イカ類は、冷スルメが国内物、輸入物ともに大幅減となり、3 か月連続で 2 ケタ減少し、全体では、2.4 割減となった。冷サケ・マス類は、冷シロサケが 3.3 割減、冷ベニサケが 1 割減となり、全体では、1.3 割減となった。平均価格では、冷イカ類は、冷スルメ (国内) が 2.4 割高、冷スルメ (NZ) が 3.5 割高、冷スルメ (SA) が 8.3 割高となり、全体では、2.3 割高となった。大幅増となった冷サンマは、3.2 割安となった。

☆加工品類 取扱数量 21,376t (対前年比 97.7%)
平均価格 826円 (" 75円高)

取扱数量では、塩干品は、丸干イワシ、開干サンマなどが増加し、全体では、小幅増となった。焼物製品は、3.2 割増となった。塩蔵品は、塩ベニサケが 3.4 割増となったが、塩アキサケが 1.2 割減、塩シロサケが 3.7 割減となり、全体では、1 割減となった。平均価格では、塩蔵品は、1.6 割高となった。塩干品は、小幅安となった。

9 月

☆鮮魚類 取扱数量 15,003t (対前年比 88.8%)
平均価格 1,021円 (" 121円高)

取扱数量では、キワダ (国内) は、7 割増となった。メバチ (国内) は、1.4 割増、メバチ (輸入) は、8.3 割増となった。マイワシは、三陸近海、山陰沿岸の漁不振で、2.6 割減となった。平均価格では、入荷減のマイワシが 5 割高となった。マアジは 1.8 割高となった。ハマチは、2.7 割安となった。

☆活魚類 取扱数量 886t (対前年比 94.4%)
平均価格 2,405円 (" 142円高)

取扱数量では、活マタイが 4 割増となった。活アナゴは、2.7 割減となった。平均価格では、活アナゴが 4.5 割高、活マタイは、1.4 割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,414t (対前年比 106.2%)
平均価格 1,064円 (" 19円安)

アサリ、アオヤギが大幅増となった。

☆冷凍魚類 取扱数量 22,673t (対前年比 87.3%)
平均価格 1,118円 (" 156円高)

取扱数量では、冷マグロ類は、キワダが豊漁続きで大幅増となり、インドマグロも 4 割増で、全体では、1.2 割増となった。冷イカ類は、スルメイカ (国内) が 2.8 割減、スルメイカ (NZ)、(SA) も大幅減となり、全体では、3.8 割減となった。冷カレイ類は、アサバ、オヒョウ、カラスなど減少となり、全体では、小幅減となった。平均価格では、冷カレイ類が 4 割高となった。冷エビ類が 1.8 割高となった。冷マグロ類は、大幅増のキワダが 3.4 割安、インドマグロも大幅安となったが、全体では、ほぼ前年並となった。

☆加工品類 取扱数量 24,060t (対前年比 91.2%)
平均価格 817円 (" 24円高)

取扱数量では、焼物製品は、1.7 割増となった。塩蔵品は、塩アキサケが 3.2 割減、スジコ、イクラなどの加工魚卵も 2~3 割減となり、全体では、2.4 割減となった。素干品は、干スルメが 3.1 割減となり、全体では、2 割減となった。平均価格では、素干品は、干スルメが 4.6 割高と

なり、全体では、3.4割高となった。煮干製品は、シラス干が3.4割高となり、全体では、3.2割高となった。

10月

☆鮮魚類 取扱数量 17,183t (対前年比 101.5%)
平均価格 1,033円 (" 76円高)

取扱数量では、メバチは、国内物が1割増、輸入物が、1.6割増となった。ハマチは、入荷順調で7割増となった。マタイは、天然物が2.5割増、養殖物が5割増、輸入物が2.3割増となった。マイワシは、各漁場で漁振るわず、入荷は、1.5割減となった。平均価格では、マイワシが3.3割高となった。メバチは、国内物が1割安、輸入物が小幅安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,010t (対前年比 104.1%)
平均価格 2,264円 (" 187円高)

取扱数量では、活マタイが4.5割増となった。活カンパチが3割減となった。平均価格では、活カンパチが1割高、活マタイが、1割安となった。

☆貝類 取扱数量 6,111t (対前年比 104.2%)
平均価格 950円 (" 15円高)

アサリ、シジミ、アオヤギなどが増加し、アカ貝が減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 23,087t (対前年比 91.3%)
平均価格 1,109円 (" 151円高)

取扱数量では、冷マグロ類は、インド洋及び大西洋漁場で豊漁だったキワダが2.5倍増とメバチの減少を補い、全体では、2割増となった。冷サバは、生鮮物の出回り少なく、輸入物も増え、3割増となった。冷イカ類は、生鮮物に押され3割減となった。冷カレイ類は、2.6割減となった。平均価格では、冷カレイ類は、2.8割高となった。冷マグロ類は、入荷増のキワダが3.4割安、インドが2.3割安となり、全体では、小幅安となった。

☆加工品類 取扱数量 28,295t (対前年比 96.6%)
平均価格 846円 (" 43円高)

取扱数量では、焼物製品は、蒲焼きウナギが3割増となり、全体では、1割増となった。塩蔵品は、塩シロサケが5.2割減となるほか、ギンサケ、スジコ、イクラ等も減少し、全体では、0.9割減となった。平均価格では、焼物製品は、1.2割高となった。煮干製品は、3割高となった。塩蔵品は、小幅安となった。

11月

☆鮮魚類 取扱数量 16,307t (対前年比 100.2%)
平均価格 1,082円 (" 37円高)

取扱数量では、マグロは、国内物が1.1割増、輸入物が2.2割増となった。ハマチは、5割増となった。不漁のサバは、3.5割減となった。サンマは、11月30日をもって漁を切り上げた。入荷は、1.1割減となった。平均価格では、入荷減のカツオが6.6割高となった。サバは、8.3割高となった。ハマチは、2.6割安となった。入荷増のマタイ(天然)は、1.8割安、マタイ(養殖)は、1.5割安となった。

☆活魚類 取扱数量 998t (対前年比 99.8%)
平均価格 1,996円 (" 45円安)

取扱数量では、活マタイが3.8割増、活シマアジが1.9割増となった。活カンパチは、3.4割減となった。平均価格では、活アナゴが1割高、活タコが4割高となった。活シマアジは1.6割安、活マタイは1.9割安となった。

☆貝類 取扱数量 6,057t (対前年比 99.7%)
平均価格 951円 (" 23円高)

アサリ、シジミ、アオヤギなどが増加し、アカ貝、ホテ貝などが減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 21,905t (対前年比 87.8%)
平均価格 1,078円 (" 57円高)

取扱数量では、冷マグロ類は、キワダ、ピンナガ、インドが大幅増となったが、主力のメバチが在庫薄を反映し、1.4割減となり、全体では、ほぼ前年並となった。冷イカ

類は、全般に低調で1.3割減となった。冷サケ・マス類は、シロサケが大幅減少となり、全体では、3割減となった。平均価格では、入荷減少の冷カレイ類が3.3割高となった。冷エビ類は、1.7割高となった。

☆加工品類 取扱数量 27,283t (対前年比 94.8%)
平均価格 921円 (" 37円高)

取扱数量では、塩蔵品は、ベニサケが2倍増となったが、アキサケ、シロサケ、ギンサケなどは減少となり、全体では、1.2割減となった。平均価格では、塩蔵品は、入荷減の塩カズノコが2.8割高となったが、全体では、ほぼ前年並となった。煮干製品は2.5割高、素干品は1.3割高となった。

12月

☆鮮魚類 取扱数量 16,374t (対前年比 98.0%)
平均価格 1,371円 (" 77円高)

取扱数量では、ハマチが、2.7割増となった。シロサケは、1.1割増となった。マイワシは、三陸北部の漁がややまとまったが、主要漁港の水揚げは34%減となった。入荷は、1.1割減となった。スルメイカは、1.6割減となった。平均価格では、入荷減のマイワシが7割高となった。スルメイカは、1.8割高となった。入荷増のハマチは、1.9割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,325t (対前年比 100.4%)
平均価格 1,961円 (" 59円安)

取扱数量では、活マタイが4.2割増となった。活スズキは、1.2割減となった。平均価格では、活カレイが2.3割高となった。活ハマチは、3割安となった。

☆貝類 取扱数量 6,604t (対前年比 99.3%)
平均価格 1,122円 (" 71円高)

アサリ、シジミ、ハマグリなどは増加したが、ウミタケ、カキ、アカ貝などが減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 25,863t (対前年比 92.1%)
平均価格 1,234円 (" 75円高)

取扱数量では、冷カレイ類は、カラスカレイ、コガネカレイが増加し、全体では、1.3割増となった。冷イカ類は、近海生スルメイカの好漁などの影響もあり、国内物、輸入物ともに大幅減少となり、全体では、2.7割減となった。冷エビ類は、中国物、台湾物などが減少し、全体では、1.3割減となった。平均価格では、冷イカ類は、1.5割高、冷エビ類も1.5割高となった。冷マグロ類は、入荷増のキワダが4.2割安、インドが1.7割安となり、全体では、小幅安となった。

☆加工品類 取扱数量 30,742t (対前年比 95.3%)
平均価格 1,049円 (" 40円高)

取扱数量では、焼物製品は、蒲焼きウナギが増加し、全体では、0.9割増となった。塩蔵品は、シロサケ、ベニサケ、ギンサケなどが2~3割増加したが、主力のアキサケが3割減となり、全体では、小幅減となった。平均価格では、塩干品が1.5割高、煮干製品が2割高となった。塩蔵品、焼物製品は、小幅安となった。

2. 主要品目の取扱高

(1) マグロ類

元年の生鮮マグロ類の入荷量は、巻網漁不振の続くマグロ(国内)が4.3割減と大幅に減少、キワダも国内・輸入物ともに減少となったが、輸入物好調のメバチは3.6割増となり、全体では、0.4割減となった。平均価格は、232円で180円高となった。品目別に見ると、入荷減少のマグロ(国内)は、平均価格が1万円を超える月もあり、高値に推移し、年間では、1,522円高となった。キワダ(国内)は、1.8割減で67円高となった。キワダ(輸入)は1.5割減で、76円高となった。入荷増となったメバチ(輸入)は、98円安となった。冷凍マグロ類では、冷キワダは在庫豊富で5割増となり、価格は282円安となった。冷メバチは、

0.3割減で、20円高となった。全体では、0.3割増で、30円安となった。

(2) マアジ

前年不振だったマアジ漁は、各漁場で好調な漁となった。入荷は、4月までは減少が続いたが、5月以降順調な入荷が続き、年間では、0.2割増となり、価格は前年並となった。

(3) サバ

サバ漁は、近年にない不漁で、水揚高は不振だった前年を更に大幅に下回った。入荷は、4月までは増加が続いたものの5月以降はどの月も減少し、年間では、2割減となった。価格は後半特に高値で推移し、年間では、108円高となった。

(4) イワシ

マイワシの漁獲量は、道東海域で前年を若干上回ったものの、三陸、常磐で特に減少し、全体の水揚高は、前年を更に下回り、8年ぶりに300万t割れ(51漁港)となった。入荷は、年間を通して減少し、1割減となった。価格は46円高となった。

(5) カツオ

カツオは、日本近海での漁や、南方竿釣漁の不振で、2年連続の不漁となった。入荷は、1.5割減となり、価格は、169円高となった。

(6) サンマ

2年のサンマの漁獲量は、前年を更に上回り、3年続きの豊漁となったが、大型物が少なかったため、入荷は、1.6割減となった。価格は、108円高となった。

(7) スルメイカ

全漁連がまとめた平成2年の全国イカ水揚量によると、スルメイカ(生鮮・冷凍)は16万6千t(前年比1%増)と前年並となった。生鮮物の入荷は、0.6割減で、平均価格は60円高となった。冷凍物は、冷スルメイカ(国内)が、1.5割減となり、27円高、産地水揚量が大幅に減った冷スルメ(NZ)が7.5割減で13円高、冷スルメ(SA)も5.5割減で、37円高となり、冷イカ類全体では2割減となり、価格は、35円高となった。

(8) 養殖ハマチ

前年は、出荷地の台風の被害などで入荷減少となったが、2年は、年間を通して3年魚の在池量が豊富に推移し、入荷も順調で3.8割増となった。価格は、206円安となった。

(9) サケ・マス類

2年のサケ・マスの輸入量は、前年を上回り、史上最高を更新した。アキサケの来遊量も前年を大きく上回り過去最高となった。市場入荷は、生鮮サケ・マス類では、シロサケが前年並で、価格は、60円安、輸入サケ・マスが2.5割増で、152円高となり、全体では、0.3割増で、価格は、74円高となった。冷凍サケ・マス類は、冷シロサケは、4割減で69円安、冷ベニサケは輸入物が増え、0.3割増で198円安、冷ギンサケは、2割減で26円安となり、全体では、1.8割減で54円安となった。塩蔵品は、ベニサケとマスノスケが増加したが、生鮮物の出回りに押され、アキサケ、シロサケなどは減少した。価格は、アキサケが74円安、シロサケが20円高、ベニサケが273円安となった。

(10) 魚卵

イクラは、0.7割減で167円安、スジコも0.7割減で320円安、スケコは、前年並で30円安となった。

(11) エビ類

生鮮エビ類は、クルマエビの国内物が2.2割増、輸入物が3.2倍増で114円高、タイショウエビが3.4割減で183円安となった。全体では、0.6割増で102円安となった。冷凍エビ類は、台湾物が7.3割減と大幅減少となったが、主力のインドネシア物が1.5割増、タイ物が7.3割増となり、全体では、0.7割増となった。平均価格は、台湾が359円高、インドネシア物が196円高、タイ物が346円高となり、全体では、205円高となった。

(12) 加工品類

カマボコ類の入荷量は、ほぼ前年並となった。平均価格は、カマボコが34円高、チンミカマボコが41円高、カニフウミカマボコが20円高、ササカマボコが14円高となった。干スルメ(国内)は、0.6割減で133円高、干スルメ(NZ)は、大幅減となり、22円高となった。シラス干は、1.1割減で425円高となった。

3. 市場別取扱高

(1) 築地市場

総取扱高は、747,355tで前年比96%と減少(34,384t減)し、総取扱金額は、755,004百万円で前年比102%とやや増加(12,765百万円増)した。類別に見ると、鮮魚類の取扱数量は151,291t(6,284t減)で前年比96%となり、取扱金額は、173,726百万円(6,439百万円増)で前年比104%となった。活魚類の取扱数量は、11,540t(383t増)で前年比103%となり、取扱金額は、24,908百万円(1,764百万円増)で前年比108%となった。冷凍魚類の取扱数量は、249,486t(15,016t減)で前年比94%となり、取扱金額は、274,035百万円(3,703百万円増)で前年比101%となった。加工品類の取扱数量は、270,205t(11,961t減)で前年比96%となり、取扱金額は、218,008百万円(1,812百万円減)で前年比99%となった。貝類の取扱数量は、54,304t(1,730t減)で前年比97%となり、取扱金額は、56,622百万円(2,645百万円増)で前年比105%となった。淡水魚類の取扱数量は、3,742t(194t減)で前年比95%となり、取扱金額は、4,975百万円(221百万円減)で前年比96%となった。海藻類の取扱数量は、6,787t(418t増)で前年比107%となり、取扱金額は、2,729百万円(247百万円増)で前年比110%となった。

(2) 足立市場

総取扱高は、66,508tで前年比92%と減少(5,544t減)し、総取扱金額は、57,927百万円でほぼ前年並となった。類別に見ると、鮮魚類の取扱数量は14,561t(1,235t減)で前年比92%となり、取扱金額は、12,093百万円(310百万円増)で前年比103%となった。活魚類の取扱数量は、727t(37t減)で前年比95%となり、取扱金額は、1,026百万円(25百万円増)で前年比98%となった。冷凍魚類の取扱数量は、19,188t(3,734t減)で前年比84%となり、取扱金額は、16,682百万円(671百万円減)で前年比84%となった。加工品類の取扱数量は、25,238t(293t減)で前年比99%となり、取扱金額は、22,550百万円(106百万円増)で前年比101%となった。貝類の取扱数量は、5,630t(322t減)で前年比95%となり、取扱金額は、4,794百万円(156百万円増)で前年比103%となった。淡水魚類の取扱数量は、379t(17t増)で前年比105%となり、取扱金額は、454百万円(2百万円増)で前年比100.5%となった。海藻類の取扱数量は、784t(69t増)で前年比108%となり、取扱金額は、329百万円(44百万円増)で前年比115%となった。

(3) 大田市場

総取扱高は、33,456tで前年比243%と増加(19,708t増)し、総取扱金額は、30,763百万円で前年比225%と増加(17,064百万円増)した。類別に見ると、鮮魚類の取扱数量は7,535t(4,011t増)で前年比214%となり、取扱金額は、6,455百万円(3,504百万円増)で前年比219%となった。活魚類の取扱数量は、316t(200t増)で前年比272%となり、取扱金額は、701百万円(476百万円増)で前年比312%となった。冷凍魚類の取扱数量は、16,883t(11,555t増)で前年比317%となり、取扱金額は、15,456百万円(9,656百万円増)で前年比267%となった。加工品類の取扱数量は、7,131t(3,143t増)で前年比179%となり、取扱金額は、6,593百万円(4,830百万円増)で前年比171%となった。貝類の取扱数量は、1,261t(660t増)で前年比185%となり、取扱金額は、1,314百万円

(604百万円増)で前年比185%となった。淡水魚類の取扱数量は、122t(58t増)で前年比191%となり、取扱金額は、158百万円(55百万円増)で前年比153%となった。海藻類の取扱数量は、207t(80t増)で前年比163%となり、取扱金額は、86百万円(38百万円増)で前年比180%となった。

※大田市場の曙大田合水は、平成元年9月18日から業務を開始した。

4. 卸売業者別取扱高

(1) 築地市場

① 大都魚類(株)

総取扱数量は、148,219tで前年比95%と減少し、総取扱金額は、144,260百万円で前年比98%と減少した。類別には、数量で鮮魚類が、5%減少(1,733t減)、淡水魚も9%減少(69t減)、主力の冷凍魚類が、5%減少(3,344t減)、加工品類は7%の減少(2,298t減)となった。金額では、鮮魚類が、4%増加(1,423百万円増)、貝類は3%増加(434百万円増)したが、冷凍魚類は、3%減少(1,847百万円減)となった。

② 中央魚類(株)

総取扱数量は、158,953tで前年比94%と減少し、総取扱金額は、185,823百万円で前年比102%と増加し、昨年に続き取扱数量・金額ともにトップとなった。類別には、数量で鮮魚類は、前年並となったが、冷凍魚類は、10%減少(7,978t減)し、加工品類も8%減少(2,935t減)となった。金額では、鮮魚類が、2%増加(3,469百万円増)し、主力の冷凍魚類も2%増加、加工品類は、3%減少(1,168百万円減)となった。

③ 東都水産(株)

総取扱数量は、149,643tで前年比92%とやや減少し、総取扱金額は、165,406百万円でほぼ前年並となった。類別には、数量で鮮魚類が、7%減少(2,590t減)し、冷凍魚類は12%減少(8,347t減)、加工品類も4%減少した。海藻類はほぼ前年並となった。金額では、鮮魚類が、2%増加(667百万円増)し、冷凍魚類は、4%減少(3,024百万円減)となった。

④ 築地魚市場(株)

総取扱数量は、141,172tでほぼ前年並となり、総取扱金額は、137,159百万円で前年比7%の伸びとなった。類別には、数量で冷凍魚類が、10%増加(3,652t増)となったが、鮮魚類が、3%減少(999t減)し、加工品類も、3%減少(1,888t減)となった。金額では、鮮魚類が、7%増加(2,153百万円増)し、冷凍魚類も、14%増加(5,876百万円増)し、加工品類は、ほぼ前年並となった。

⑤ 第一水産(株)

総取扱数量は、59,126tで前年比99%とわずかに減少し、総取扱金額は、60,816百万円で前年比105%の増加となった。類別には、数量で鮮魚類が、5%減少(918t減)したが、冷凍魚類は、9%増加(1,001t増)となり、海藻類も21%の増加となった。金額では、鮮魚類は、4%増加(621百万円増)し、加工品類は、2%増加(303百万円増)冷凍魚類は、12%増加(1,368百万円増)となった。

⑥ 丸千代田水産(株)

総取扱数量は、73,539tで前年比98%とやや減少し、総取扱金額は、46,541百万円で前年比105%と増加した。加工品類の取扱としては、数量・金額ともに昨年に続きトップとなった。類別には、数量で加工品類が、2%減少(1,445t減)し、海藻類は、9%増加(109t増)となった。金額では、加工品類は、5%増加(2,038百万円増)し、海藻類は、9%増加(43百万円増)となった。

⑦ 総合食品(株)

総取扱数量は、16,704tで前年比94%と減少し、総取扱金額は、14,988百万円で前年比104%と増加した。類別には、数量で加工品類は、6%減少(987t減)し、海藻類

は、29%増加(12t増)となった。金額では、加工品類は、4%減少(522百万円減)し、海藻類は、13%増加(3百万円増)となった。

(2) 足立市場

① 東京北魚(株)

総取扱数量は、25,010tでほぼ前年並となり、総取扱金額は、21,052百万円で前年比104%と増加した。類別には、数量で鮮魚類は、前年並となったが、加工品は、6%増加(641t増)、海藻類も、16%増加(45t増)となり、淡水魚類は、12%減少(15t減)となった。金額では、鮮魚類は、6%増加(223百万円増)し、加工品類は、3%増加(300百万円増)となった。

② 大都魚類(株)千住支社

総取扱数量は、21,417tで前年比84%と減少し、総取扱金額は、18,452百万円で前年比95%と減少した。類別には、数量で鮮魚類は、9%減少(469t減)し、冷凍魚類は、32%減少(2,755t減)となり、加工品類も9%減少(859t減)となった。金額では、鮮魚類は、5%減少(977百万円減)し、冷凍魚類は、11%減少(649百万円減)し、海藻類は15%増加(11百万円増)となった。

③ 中央魚類(株)千住支社

総取扱数量は、20,080tで前年比94%と減少し、総取扱金額は、18,424百万円で前年比101%と増加した。類別には、数量で加工品類は、1%減少(74t減)し、冷凍魚類は、8%減少(613t減)となり、鮮魚類は、8%減少(445t減)、貝類も減少した。金額では、加工品類は、1%減少(74百万円減)し、鮮魚類は、1%増加(124百万円増)、冷凍魚類は、2%減少(99百万円減)となった。

4. 卸売業者別取扱高

(3) 大田市場

① 東京大田魚市場(株)

総取扱数量は、16,547tで前年比167%と増加し、総取扱金額は、16,057百万円で前年比155%と増加した。類別には、数量で鮮魚類は、68%増加(1,908t増)し、冷凍魚類は、85%増加(2,852t増)、加工品類は、52%増加(1,555t増)となった。金額では、鮮魚類は、10%増加(1,619百万円増)し、冷凍魚類は65%増加(2,654百万円増)、加工品類は、34%増加(1,058百万円増)となった。

② (株)大田合水

総取扱数量は、16,910tで前年比437%と増加し、総取扱金額は、14,708百万円で前年比440%と増加した。類別には、数量で鮮魚類は、287%増加(8,703t増)、冷凍魚類は、441%増加(8,703t増)、加工品類は、163%増加(1,589t増)となった。金額では、鮮魚類は、301%増加(1,884百万円増)、冷凍魚類は、401%増加(7,002百万円増)、加工品類は、221%増加(1,673百万円増)となった。

※大田合水の前年比は営業開始の平成元年9月以降の取扱高と比較。

(4) 買付比率

全体の買付比率は、数量では、50.7%と前年を1.0%上回り、金額では、50.2%と前年を0.5%上回った。市場別に見ると、築地市場の買付比率は、数量では、50.0%と前年を0.3%上回り、金額では、49.1%と前年と同じになった。足立市場の買付比率は、数量では、47.2%と前年を2.3%下回り、金額では、53.9%と前年を1.6%下回った。大田市場の買付比率は、数量では、71.5%と前年を18.8%上回り、金額では、72.1%と前年を16.3%上回った。卸売業者別に見ると、大都魚類は、数量では、50.6%と前年を0.1%下回り、金額では、45.5%と前年を1.9%下回った。中央魚類は、数量では、53.9%と前年を1.1%上回り金額では、51.9%と前年を0.3%下回った。東都水産は、数量では、50.5%と前年を1.8%下回り、金額では、50.2%と

前年を2.1%下回った。築地魚市場は、数量では、37.3%と前年を3.2%上回り、金額では、38.2%と前年を3.9%上回った。第一水産は、数量では、37.8%と前年を2.9%上回り、金額では、42.3%と前年を1.5%上回った。丸千代田水産は、数量では、76.9%と前年を1.8%上回り、金額では、82.0%と前年を1.0%上回った。総合食品は、数量では、37.2%と前年を3.8%上回り、金額では、59.7%と前年を2.3%上回った。東京北魚は、数量では、43.4%と前年を2.2%下回り、金額では、55.3%と前年を3.2%下回った。大都魚類千住支社は、数量では、41.4%と前年を5.4%下回り、金額では、48.6%と前年を0.9%下回った。中央魚類千住支社は、数量では、58.2%と前年を0.8%下回り、金額では、57.7%と前年を0.8%下回った。東京大田魚市場は、数量では、64.0%と前年を17.5%上回り、金額では、69.0%と前年を15.3%上回った。大田合水は、数量では、78.9%と前年を10.2%上回り、金額では、75.6%と前年を13.3%上回った。

5. 出荷地別取扱高

(1) 総取扱高

都道府県別の取扱高数量のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位千葉・4位宮城・5位北海道・6位愛知・7位三重・8位青森・9位神奈川と9位までは、前年の3位と4位が入れ代わっただけで、10位は前年の岩手に変わり福島となった。取扱高金額のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位北海道・4位宮城・5位千葉・6位神奈川・7位愛知と7位まで前年と変わらず、8位に大阪、9位に岩手と前年と入れ代わった。10位は前年と同じ三重となった。

(2) 鮮魚取扱高

第1位は、ハマチの増えた東京となった。前年1位だった宮城は、サンマ、カツオが減少し2位となった。3位千葉・4位北海道・5位長崎・6位静岡と前年と変わらず。7位は三重、8位は愛媛、9位岩手となり、10位には、佐賀が上がった。

(3) 冷凍魚取扱高

東京は、前年に続き1位となった。2位静岡・3位宮城・4位青森と前年と変わらず。大阪が5位に上がり、6位に神奈川が下がった。7位・北海道で、8位は千葉、9位岩手と前年と入れ代わった。10位は愛知で前年と変わらずだった。

(4) 加工品取扱高

東京が前年に続き取扱高5万tを越え、第1位となった。2位も前年同様北海道となった。3位は千葉、4位静岡となり前年と入れ代わった。5位は宮城、6位・福島、7位愛知、8位三重・9位茨城・10位神奈川と前年と変わらずだった。

表1 年次別取扱高

(単位：トン・千円・%)

年次 区分	2年	元年	63年	62年	61年	60年	59年
総数量	847,319	867,538	882,040	889,831	865,060	852,094	855,321
前年比	97.7	98.4	99.1	102.9	101.5	99.6	104.5
総金額	843,694,370	813,943,824	791,664,123	774,701,487	737,241,220	735,484,513	728,755,797
前年比	103.7	102.8	102.2	105.1	100.2	100.9	105.3

表 2-1 年次別魚種別取扱数量

(単位:トン・%)

年次 魚種	2 年		元 年		63 年		62 年		61 年		60 年		前 年 比					元/60
	数 量	構成比	数 量	構成比	数 量	構成比	数 量	構成比	数 量	構成比	数 量	構成比	2 年	元 年	63 年	62 年	61 年	
総 数	847,319	100.0	867,538	100.0	882,040	100.0	889,831	100.0	865,060	100.0	852,094	100.0	97.7	98.4	99.1	102.9	101.5	99
鮮 魚	173,388	20.5	176,894	20.4	185,477	21.0	182,210	20.5	175,220	20.3	177,786	20.9	98.0	95.4	101.8	104.0	98.6	105
活 魚	12,582	1.5	12,036	1.4	—	—	—	—	—	—	—	—	104.5	—	—	—	—	—
貝 類	61,195	7.2	62,588	7.2	67,117	7.6	67,544	7.6	69,174	8.0	67,475	7.9	97.8	93.3	99.4	97.6	102.5	91
冷凍魚	285,557	33.7	292,752	33.7	305,479	34.6	319,140	35.9	305,931	35.4	289,553	34.0	97.5	95.8	95.7	104.3	105.7	99
鯨 類	—	—	—	—	334	0.0	884	0.1	1,197	0.1	2,005	0.2	—	—	37.8	73.9	59.7	—
淡水魚	4,242	0.5	4,362	0.5	4,505	0.5	4,740	0.5	4,686	0.5	5,047	0.6	97.2	96.8	95.0	101.2	92.8	84
海藻類	7,779	0.9	7,221	0.8	7,758	0.9	7,074	0.8	7,159	0.8	7,131	0.8	107.7	93.1	109.7	98.8	100.4	109
加工品	302,575	35.7	311,685	35.9	311,370	35.3	308,239	34.6	301,693	34.9	303,098	35.6	97.1	100.1	101.0	102.2	99.5	100

表 2-2 年次別魚種別取扱金額

(単位:百万円・%)

年次 魚種	2 年		元 年		63 年		62 年		61 年		前 年 比					元/60
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	2 年	元 年	63 年	62 年	61 年	
総 数	843,694	100.0	813,944	100.0	791,664	100.0	774,701	100.0	737,241	100.0	103.7	102.8	102.2	105.1	100.2	115
鮮 魚	192,274	22.8	182,021	22.4	188,661	23.8	180,410	23.3	175,184	23.8	105.6	96.5	104.6	13.0	106.1	133
活 魚	26,635	3.2	24,421	3.0	—	—	—	—	—	—	109.1	—	—	—	—	—
貝 類	62,731	7.4	59,326	7.3	54,657	6.9	53,436	6.9	47,731	6.5	105.7	108.5	102.3	112.0	101.6	134
冷凍魚	306,173	36.3	293,484	36.1	297,004	37.5	291,384	37.6	282,533	38.3	104.3	98.8	101.9	103.1	100.0	108
鯨 類	—	—	—	—	928	0.1	1,993	0.3	2,109	0.3	—	—	46.6	94.5	76.7	—
淡水魚	5,587	0.7	5,751	0.7	5,451	0.7	6,201	0.8	5,998	0.8	97.1	105.5	87.9	103.4	90.6	84
海藻類	3,144	0.4	2,815	0.3	2,792	0.4	2,512	0.3	2,556	0.3	111.7	100.8	111.1	98.3	97.6	120
加工品	247,150	29.3	246,126	30.2	242,171	30.6	238,766	30.8	221,130	30.0	100.4	101.6	101.4	108.0	96.6	108

表 2-3 年次別魚種別平均価格

(単位:キロ当たり円・%)

年次 魚種	2 年		元 年		63 年		62 年		61 年		対 60 年 指 数				
	価 格	前年比	価 格	前年比	価 格	前年比	価 格	前年比	価 格	前年比	2 年	元 年	63 年	62 年	61 年
総 数	996	106.2	938	104.5	898	103.1	871	102.2	852	98.7	115	109	104	101	99
鮮 魚	1,109	107.8	1,029	101.2	1,017	102.7	990	99.0	1,000	107.6	119	111	109	107	108
活 魚	2,117	104.3	2,029	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
貝 類	1,025	108.1	948	116.5	814	102.9	791	114.6	690	99.1	147	136	117	114	99
冷凍魚	1,072	106.9	1,003	103.2	972	106.5	913	98.8	924	94.7	110	103	100	94	95
鯨 類	—	—	—	—	2,776	123.1	2,255	128.0	1,762	128.4	—	—	202	164	128
淡水魚	1,317	99.9	1,318	108.9	1,210	92.5	1,308	102.2	1,280	97.6	100	100	92	100	98
海藻類	404	103.6	390	108.3	360	101.4	355	99.4	357	97.3	110	106	98	97	97
加工品	817	103.4	790	101.5	778	100.4	775	105.7	733	97.1	108	105	103	103	97

注 平成元年から活魚類を大分類とし、鯨類は削除、生鯨は鮮魚類へ、冷凍鯨は冷凍魚類へ区分した。

表3-1 市場別・年次別取扱数量

(単位:トン・円)

市場	年次 区分	2年		元年		63年		62年		61年	
		数量 前年比	構成比	数量 前年比	構成比	数量 前年比	構成比	数量 前年比	構成比	数量 前年比	構成比
総数	数量 前年比	847,319 97.7	100.0	867,538 98.4	100.0	882,040 99.1	100.0	889,831 102.9	100.0	865,060 100.2	100.0
築地	数量 前年比	747,355 95.6	88.2	781,739 97.2	90.1	804,095 98.7	91.2	814,995 102.7	91.8	793,742 100.3	91.8
足立	数量 前年比	66,508 92.3	7.8	72,052 103.3	8.3	69,740 103.8	7.9	67,176 104.8	7.4	64,078 103.1	7.4
大田	数量 前年比	33,456 243.4	3.9	13,748 167.6	1.6	8,205 107.1	0.9	7,660 105.8	0.8	7,241 100.2	0.8

表3-2 市場別・年次別取扱金額

(単位:百万円・%)

市場	年次 区分	2年		元年		63年		62年		61年	
		金額 前年比	構成比	金額 前年比	構成比	金額 前年比	構成比	金額 前年比	構成比	金額 前年比	構成比
総数	金額 前年比	843,694 103.7	100.0	813,944 102.8	100.0	791,664 102.2	100.0	774,701 105.1	100.0	737,241 100.2	100.0
築地	金額 前年比	755,004 101.7	89.5	742,239 101.9	91.2	728,171 101.9	92.0	714,538 105.1	92.2	680,173 100.3	92.3
足立	金額 前年比	57,927 99.9	6.9	58,006 104.2	7.1	55,685 105.2	7.0	52,920 105.6	6.8	50,128 100.2	6.8
大田	金額 前年比	30,763 224.6	3.6	13,699 175.4	1.7	7,808 107.8	1.0	7,243 104.4	0.9	6,940 98.9	0.9

注 平成元年9月18日に大森市場が廃止され、大田市場の水産物部が業務を開始。大森市場の取扱分は大田市場に含めて計上。